

BELIEVE

BELIEVE
2010
春号
VOL.32

心

- 新院長就任のごあいさつ 隠岐 尚吾
- 外来・入院アンケート調査 集計結果発表



「桜」 古谷 秀男 制作:2007年 素材:ペン、紙

〈大阪赤十字病院は作品掲載を通じてバリアフリーを推進しています〉

奈良〈大和高原太陽の家〉所属 エイブルアート・カンパニー登録作家 <http://ableartcom.jp>

「いつかわからないが、夢をみて描いた」と作者の古谷さん。移民として過ごしたブラジルに咲いた桜の花と記憶の風景が広がります。遠くにみえる溪谷、魚の泳ぐ湖沼、地をはう小動物や、色鮮やかに描かれた低木の植物…。桜の花はつぼみなのでしょうか、咲き終わりの果実なのでしょうか。枝の隙間からのぞく、まるい深紅の太陽は夕陽なのでしょうか、朝陽なのでしょうか。花霞みのような空の色調が、この作品のエキゾチックで装飾的な美しさをさらに際立たせています。

大阪赤十字病院の基本理念

わたくしたちは人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さまの権利

1. だれもが、一人の人間として、人権がまもられる権利を尊重します
2. 良質かつ適切な医療が、公平に受けられる権利を尊重します
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利を尊重します
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利を尊重します
5. プライバシーがまもられる権利を尊重します

大阪赤十字病院に来院された患者さまへ

就任のごあいさつ

院長 隠岐 尚吾

兵庫県生まれ。京都大学医学部卒業。昭和57年大阪赤十字病院内科医員に。
平成4年同医院内科部長に(糖尿病内分泌内科)。
平成18年同医院副院長、平成22年同医院院長に就任。



大阪赤十字病院の隠岐でございます。このたび、平成22年4月1日をもって院長に就任しました。前任の本田孔士院長を後継し、微力ではありますが、皆様から信頼される病院作りに全力で努力する決意です。よろしくお願いいたします。

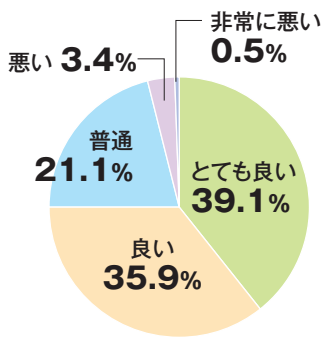
当院は、昨年、創立100周年を迎えました。明治42年に当地に創立されて以来、100年もの間診療を続けてくることができましたのは、皆様方の当院の診療に対するご理解のたまものと感謝しております。これからも、大阪赤十字病院の基本理念であります「わたくしたちは、人道・博愛の赤十字精神に基づき、すべての人の尊厳をまもり、心のかような高度の医療をめざします」を心がけ、長い伝統に支えられた当院の長所を伸ばし、赤十字病院としての使命を果たしていきたいと考えています。

大阪赤十字病院は1,000床を有する大阪地区でも屈指の大病院です。それぞれの診療科に一流の専門家を有し、多種、多様な疾患に対応する総合病院としての診療体制を築いてきました。地域の先生方と連携し、専門的な診療を必要とする疾患を中心に、救急医療、災害医療などにも力を入れてきました。また、近隣の先生方や医療関係者と共同で研修会を行い、医療の質の向上に努めてきました。その結果、昨年には、大阪府より地域医療支援病院の認可を受けました。地域の中核として医療を支え、地域の医療を後方支援する病院と認められました。今後も、地域に密着した専門性の高い総合病院をめざしていきたいと考えています。

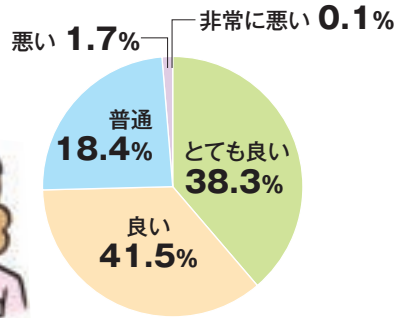
医療がますます高度になり、それに高齢化の急速な進行が伴って、国民の医療に対する関心にはきわめて大きなものがあります。また、今日、病院の医療に対する様々なご意見、ご批判があることは、重大に受け止めています。大阪赤十字病院に対する皆様方のご要望に少しでもお応えし、診療を通じて、大阪赤十字病院の医療が皆様方の安心の場となりますよう努力していきたいと思っています。

総合

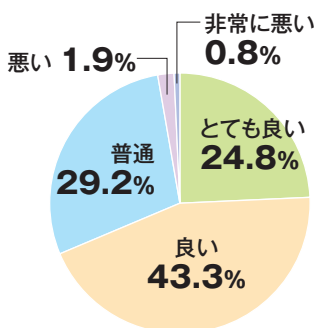
Q 医師の対応について (全体の平均値)



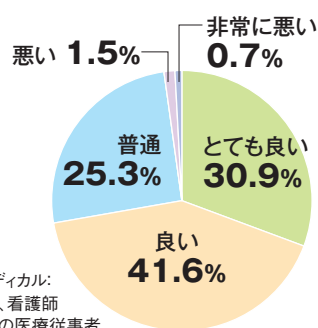
Q 看護師の対応について (全体の平均値)



Q 事務職員の対応について (全体の平均値)

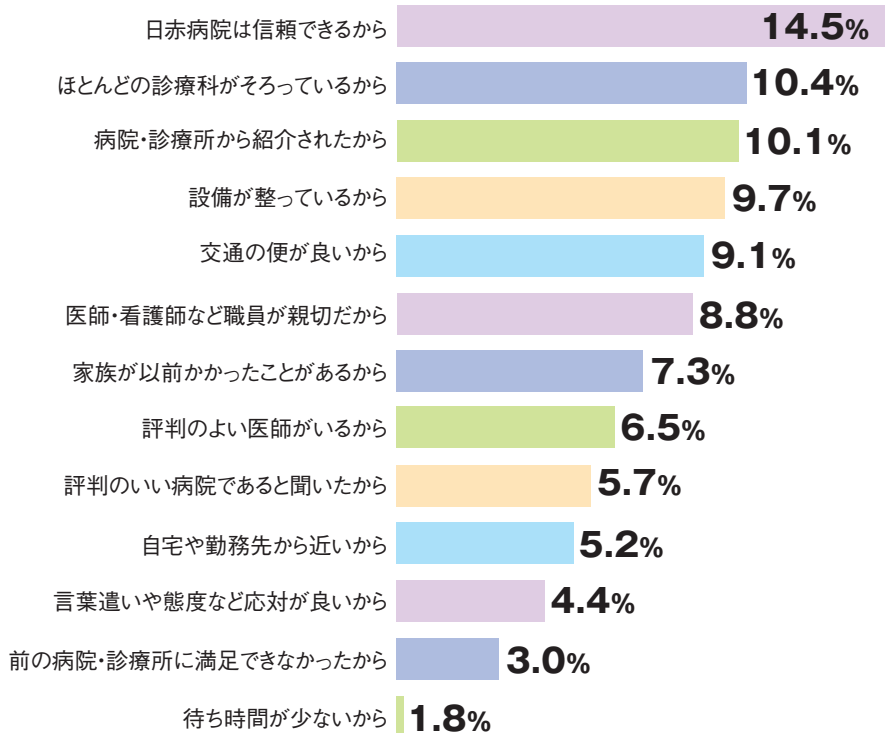


Q コメディカル※の対応について (全体の平均値)



※コメディカル:
医師、看護師
以外の医療従事者

Q 当院を選ばれた理由をお聞かせ下さい。(複数回答可)



外来・入院アンケート調査

集計結果発表

去る1月25日から29日まで、「患者さまの声をお聞かせください」とのことで、外来・入院アンケートを実施しましたところ、多くの患者さまにご協力をいただき、たくさんの声が寄せられました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

皆様のご意見をもとに、ご期待に添えるよう、また「こころのかよう高度の医療」を提供していただけるよう全力を尽くしてまいります。

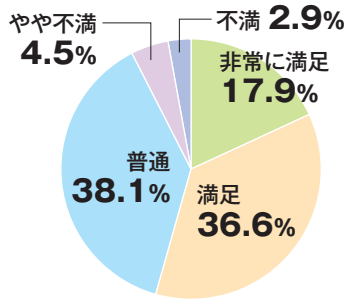
- ・調査対象／大阪赤十字病院通院中及び入院中の患者さま
- ・調査日／外来・入院：1月25日～29日
- ・調査方法／外来アンケート：各科外来受付、総合案内に設置
入院アンケート：各階病棟スタッフステーション、デイルームに設置

■平成20年度 患者数及び平均在院日数

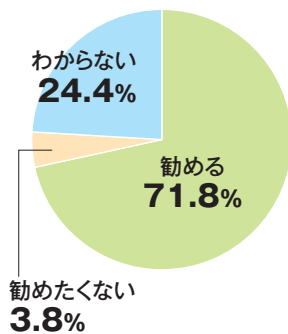
入院				外来	
入院診療日数:365日				外来診療日数:242日	
延患者数	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数	延患者数	1日平均患者数
276,654人	758.0人	19,386人	12.9日	542,178人	2,240.4人

外来

Q 総合的に見て、外来のサービスに満足していますか。

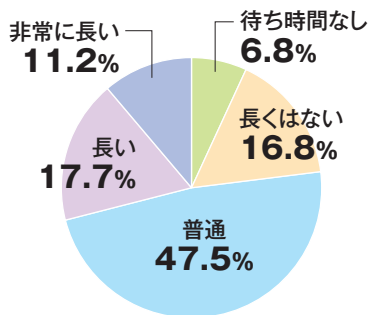


Q 知人や家族に当院を受診するよう勧めようと思いますか。



Q 待ち時間はどうでしたか。

初診受付、診察、採血、検査、X線撮影・CT・MRI、計算窓口、お支払い。以上7項目の平均値です。



患者さまからのご意見

・大きい病院という壁があり、心配なときに気軽に相談できない。

ご迷惑をおかけしております。2階③窓口に医療・福祉相談支援センターがございますので、お気軽にご相談ください。

・コンビニで買ったものを食べる場所がない。

休憩スペース確保が困難な状態です。ご理解願います。

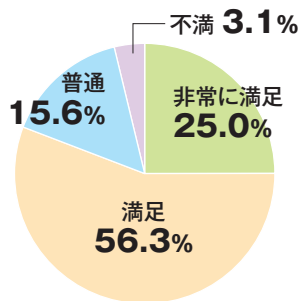
・診察時間が遅れるときは、表示してほしい。
・待ち時間を早くされることを望みます。

現在、診察時間が遅れている場合、「何時間遅れております」と表示しております。ご迷惑をおかけしておりますが、開始時間には始められるように、待ち時間が短縮できるように努めてまいります。



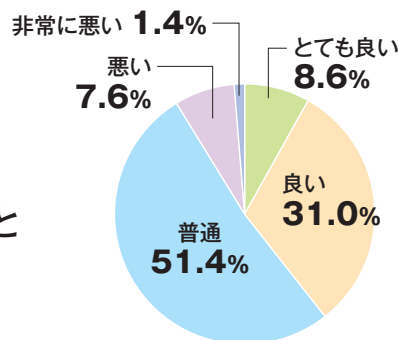
入院

Q 総合的に見て、入院中のサービスに満足していますか。

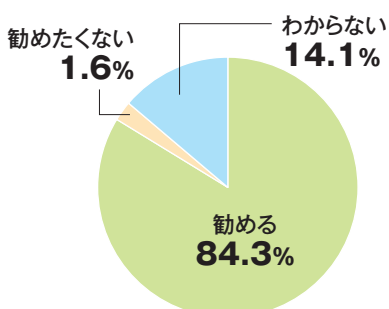


Q 食事について

食事の味、色どり、食事の内容(メニュー)、食事の温度、食器。以上5項目の平均値です。



Q 知人や家族に当院を受診するよう勧めようと思いますか。



患者さまからのご意見

・入院している人、お見舞いの人は病室で大きな声で話したりせず、周りの患者のことも考えてほしい。
・病室内で、携帯電話をかけたたり、DVDを大きな音で聞くのは、やめてほしい。
・看護師や先生や職員の人の歩く音が大きいので、履物に注意してほしい。

靴の音には日ごろより注意するようにはしておりますが、今後とも指導していきたいと思えます。また、規格外の靴を着用している職員にも厳しく指導してまいります。

・携帯電話の使用をもっと厳しくしてください。

当院では、携帯電話は指定された場所以外での使用は禁止しております。表示等で場所を明示し、注意を喚起しておりますが、今後もより気をつけていきたいと思えます。

・看護師さんが、とても親切で優しく対応がよいので、気持ちよく入院生活を送れた。
・腕のいい先生にめぐり合せ、手術して下さったことに感謝しています。
・風呂に入れるようにしてほしい。

必要な方には、介助で入浴していただいておりますが、お一人での入浴は危険を伴いますのでご遠慮いただいております。なお、当院では、入浴は原則禁止しておりますので、ご理解願います。

・食事メニューを変えてほしい。

当院では3週間のサイクル献立になっておりますが、随時、献立を変更しております。また、季節ごとに特別献立もご用意しております。

何よりも、安心していただくこと。 医師として、人として患者さまと関われるように。

産婦人科 部長 吉岡 信也



**出産あり手術あり、
治療あり。
産婦人科は
マンパワーで
乗り越えないと。**

2009年に大阪赤十字病院で誕生した新生児は約750人。1年を通してみると、1日に2.1人出産されている

ることになる。その産婦人科を統括しているのが吉岡医師。産婦人科といっても、妊娠・出産の検診・診療だけでなく、婦人科系疾患の治療や手術など幅広いのが特長である。取材の日も術後の患者さまを回診した後に到着され、医療用携帯が鳴つたりと、「普段の仕事」とはいえ、日々忙しい様子が伺える。「出産は、うまく産まれて当たり前なことなのですが、妊娠前から持病のある方の出産はハイリスクといわれるものです。その中には何も持病がなかった方なのに、お産時に急変して命の危機にさらされる場合もあり、予測できないことに出遭うこともあります。その予測できないことに対応するには、医師・看護師の経験値、マンパワーが不可欠なんです。」



福井で開催されたフランス車ミーティングに参加したときの「シトロエン」とお子さんたちのショット。シトロエンは幼い頃、フランスに滞在していた時に「カッコいい」と憧れていた車だとか。

現在、深刻な問題となっている産婦人科の人材不足は、主に地方・中小都市の病院が多い。それは「いつ産まれるかわからない」と時間が読めないゆえの、過剰な拘束時間が原因のひとつでもあり、少ない人材がさらに減少してしまいうという悪循環を起している。「週に3回の手術日、1日平均60名の外来患者さまの診察、そして分娩と仕事に追われる毎日ですが、今、産婦人科は医師を11名体制で対応しています。手術や治療といった面がある一方で、『よかったね、おめでと〜』と誕生の喜びの声が届く面もある病棟です。これから出産を

迎える人に安心してお産ができる病院として、やれること、努力すべきところはたくさんあります。」

**人と深く関わり合いながら、
この病院だからこそできる医療を。**

「人対人、人と接せられる仕事に就きたいと思っていました。産婦人科の医師は、その病気の治療に最初から最後まで関わられる。また出産という重大な場面に立ち会える仕事をと、選びました。」産婦人科医師として病院に勤めてからは、人員の少ない病院での経験や、子宮頸ガン、卵巣ガンなど婦人科系疾患における研究・留学、体外受精治療にも携わるなど、吉岡医師の業務は多岐に渡っている。部長になる以前からも

家族と過ごす時間は限られている。そう。「普段の休日はありますが、なかなか自由な時間がないので、休みといえれば夏休みに二週間ほど休暇をとって出かける家族旅行ですね。」

日赤病院の産婦人科医師として、専門とする婦人科系疾患のひとつ、ガン治療に力を入れていきたいという吉岡医師。患者が増加傾向にありながら、日本

ではまだまだ検診受診率が低く、それには医師からの説明も重要だという。病院に訪れる患者さまは10代後半からご年配の方、主婦の方もいれば妻・母であるなど、さまざまな立場や背景を持つ。「医学的なことを伝える医師として関わるとともに、人として接することを大切にしたい」と話す吉岡医師の目指す医療は、多くの患者さまの命を救ってくれるだけでなく、女性が安心して頼れる医療なのである。



profile
SHINYA YOSHIOKA
8月13日、神戸市生まれ。京都大学医学部卒業。同大学医学部附属病院研修医を経て、平成4年に日本赤十字社和歌山医療センター産婦人科医に。平成8年には京都大学大学院医学研究科に入学、米国テキサス州Trinity Universityへの留学で排卵機構の研究に従事。平成20年に大阪赤十字病院に赴任。翌年産婦人科部長に就任。

看護師レポート



松田 信子

MATSUDA NOBUKO
12月2日、佐賀県生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業後、大阪赤十字病院に就職。中央手術室、各病棟看護・係長、師長に就任の後、平成15年より看護部副部長に。新卒・中途採用看護師、在籍する看護師の人事を担当している。

患者さまの不安を安心に変える 赤十字の看護を伝えたい

看護学校を卒業してからのこの病院で働いて、もう30年経ちました。今は看護師の人事を担当していますが、「看護とは何か？」を語るには、奥が深く何から話せばいいのか迷うほどです。私が思う看護師の仕事とは、「患者さまのそばにいてサポートすること」。たとえば自分のおばあちゃんが初めて海外旅行に行くとなったとき、少しでも旅行先のことを知っている人が付き添ってあげれば本人も家族も安心ですし、充実した旅ができる。そのおばあちゃんが患者さままで、付き添う人が看護師。自分の体のことを理解してくれて、気をつけてもらっている、そういう役割を果たすのが看護師だと話しています。

現在、当院に在籍する看護師は830人。毎年看護学校の卒業生や外部から就職してくる看護師がいます。「赤十字」の看板を背負った病院だからこそ、「ここで働きたい」という看護学生や看護師に望むことは、自分なりの看護を見つけ、膨らましていてもらいたいということ。看護学校で学ぶのは看護の基本で、現場に立って初めて難しさややりがいに出会います。新人看護師には「あれができなきゃいけない」といったことを求めるのではなく、何事にも前向きに向き合い、「どうすれば」と考える力をつけて、看護師としてのやりがいを味わってほしいですね。



ご家族と一緒に京の名庭めぐり。京都の雅な歴史散策を満喫したら、次は奈良を巡るのだとか。

歩くのが好きで、休みの日は夫と近くの公園を一万歩目指してウォーキングしています。定年後は、「自分のルーツ」をたどることをテーマにしようと思いい、今から日本の歴史を勉強していこうと、「京めぐり」に出かけたりもしています。

就職して、結婚して、子育てして働いてきたことは大変だったのですが、看護師の仕事が楽しくて、仕事を辞めようと思ったことがないくらい。今は現場を離れています。看護の仕事もしたいですね。一生二回しかないから、自分のできることを楽しもうと思います。

がんサポートチーム 室長 甲斐 登志子

本院は再び厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました!

本院は平成14年度から「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けておりますが、平成22年度以降も継続して指定を受けることが決定いたしました。

厚労省から指定を受けるには、『地域がん診療連携拠点病院』の厳しい要件をクリアできていることが必要となります。その要件とは、がん治療の実績があることはもちろんですが、その他にがん相談支援センターが設置され、がん相談の実績がある(本院2階8番窓口)、機能評価を受けている(今年も受審予定)、がん治療の機器や設備が整っている、ガイドラインに沿った必要な治療が行われている、がん治療の専門知識を持つ人材がいる(専門医、がん専門・認定看護師)、地域の医療者へのがん医療関連の研修を開催している、緩和チームが院内外で活動を行っている、などです(詳細な活動実績はHPをご覧ください)。

この要件の内容は、平成19年のがん対策基本法の施行

以降病院にとっては年々厳しい整備を求められておりますが、患者さまにとってはどこでも同じがん医療を受けられるための環境が整ってきているといえます。全国の地域がん診療連携拠点病院は平成22年度は375施設となります。

しかし大阪府のがん患者数は、自慢になりませんが全国でもワースト1,2位を争う現状です。大阪府も重要課題と考え、厚労省の要件を満たさなくてもがん医療の実績がある病院を府指定のがん拠点病院として平成21年度から設置しています(全国初)。

つまり、大阪府下には厚生労働省指定の地域がん診療連携拠点病院が15施設と、大阪府指定のがん診療拠点病院23施設の計38病院となり、府下のがん医療を充実させる努力をしています。

今後も本院は、地域がん診療連携拠点病院として地域の医療施設と連携し、がん医療に貢献できるよう努力してまいります。患者さま・地域の皆様も本院を活用していただければ幸いです。



当院では、がん全般に関する様々なご相談をがんサポートチームの看護師がお受けしています。

がん看護相談室 TEL:06-6774-5192

FAX:06-6774-5126

syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

●毎週火、金曜午後2時~4時(予約制) ●本館2階・8番窓口(随時)

次回は「緩和ケア外来について」を予定しています。

解熱鎮痛剤

薬剤部 薬剤師 部屋 衣美子

ミニ知識

おくすり

■解熱鎮痛剤は医師からも処方されますが、ドラッグストアなどでも簡単に手に入り、また熱を下げたり、痛みを抑えたりという作用からも最も身近な薬のひとつではないでしょうか?

■解熱鎮痛薬は一般に大きく二つに分類されます。

一つは非ステロイド性鎮痛剤(NSAIDs:エヌセイド)と総称される薬で、アスピリンやロキソプロフェン、ジクロフェナクなどが例として挙げられます。プロスタグランジンという痛みを出す物質や、正常な体温を上げたりする物質を抑えることで効果を発揮します。もう一つはアセトアミノフェン。こちらは脳の体温調節をしている部分に働きかけて熱を下げたり、痛みを出す物質を抑えて痛みを抑えたりします。

■私たちの身近な解熱鎮痛剤ですが、副作用がまったくないわけではありません。非ステロイド性解熱鎮痛薬は胃腸障害や喘息が挙げられます。何回か続けて飲んでいて胃が痛いなどの症状が現れたことはありませんか? このような症状が現れた場合は、なるべく食後に飲むなど胃を守る工夫をしてみてください。また、喘息の人は非ステロイド性解熱鎮痛薬により喘息発作を引き起こすことがありますので、アセトアミノフェンを飲まれることをおすすめします。

■では、これらの薬をどうやって使い分けているのでしょうか? 同じ効果をもつ薬でも、痛みを取る効果の方が熱を下げる効果よりも得意な薬や、逆に熱を下げる効果の方が強いものなどさまざまです。また、1日1回で効果が一日中持続するものや1日3~4回飲む薬などがあります。このように同じ効果の薬でも特徴がそれぞれ異なるので、目的に合った薬を選びましょう。

■解熱鎮痛剤は、私たちの身近なものですが、そもそも熱も痛みも、原因もなく現れたりはいしません。何か身体の異常を訴えて出てくる身体SOSですので、いつまでたっても症状が改善しない場合は一度受診することをおすすめします。

動いてリフレッシュ

栄養管理課 管理栄養士 谷口 留美

最近、ランニングやフィットネスクラブに通うなど、余暇にスポーツを楽しむことがブームとなっています。ダイエットや体力作り、リフレッシュを目的としている人はもちろんですが、純粋に楽しみたいという人も増えてきているようです。

身体が円滑に働くためには、食べ物から栄養を摂取します。

その栄養素は三大栄養素《たんぱく質、脂質、糖質》です。これらは体を動かすためのエネルギーになりますが、これだけでは不十分です。3つの栄養素が体内で活用される物質に変わるために必要なのが、ビタミンやミネラルです。運動による発汗にともなって汗中に排出されるミネラルを補給する必要があります。運動をしていると、普段よりもビタミン必要量が飛躍的に増大します。発汗による流出や活動量の増加から、より多くのビタミンが代謝に必要とされます。

運動をすると新陳代謝が高まるので、ビタミンB1、B2、C、ナイアシンなどの消費が多くなります。このように様々なミネラルやビタミンが必要となるのですが、今回はビタミンCについてチェックしていきたいと思います。

ビタミンCは、また、有酸素運動中に体に取り込まれた酸素から生成される活性酸素を除去する働きもあります。また、腱靭帯をつくるコラーゲンを強化する意味で、日常ビタミンCを多く含んだ野菜や果物をとることも心がけることが大切です。

運動をする方は、ビタミンCを通常の2~2.5倍摂る必要があるといわれているので、200~250mgのビタミンCが最低でも必要となります。

ビタミンCは長期間保存したり、調理にミキサーなどを使うと空気によって酸化されやすく、直ぐに破壊されてしまいます。新鮮なうちに野菜を丸ごと食べるというのが1番いい摂取方法です。

また、ビタミンCは体に貯蔵できる量が少なく、一度に大量に摂っても体で利用されなかった分は尿中に排泄されてしまいます。1日3回の食事に、ビタミンCをまんべんなく取り入れたり、食後のデザートに果物を食べるなど心がけましょう。

★主な果物の100g当たりのビタミンCの含有量

食品名	mg/100g	食品名	mg/100g	食品名	mg/100g
アセロラ	1700mg	いちご	62mg	はっさく	40mg
レモン	100mg	ネーブル	60mg	グレープフルーツ	36mg
柿	70mg	パパイヤ	50mg	温州みかん	35mg
キウイフルーツ	69mg	きんかん	49mg	パイナップル	27mg

ハイチ地震救援報告

泌尿器科部 副部長 光森 健二 / 国際医療救援部 看護師 河合 結子

「ハイチ大地震災害救援事業」当院からの派遣者および派遣期間
 事務管理・国際医療救援部国際救援課主事 リテルスボーン キンイチ / H22.1.17~3.22
 医師・泌尿器科部副部長 光森 健二 / H22.1.24~2.28
 看護師・国際医療救援部看護師 河合 結子 / H22.1.24~2.28
 医師・呼吸器外科部長兼国際医療救援部長 中出 雅治 / H22.2.13~3.28
 看護師・健診部看護師長兼国際医療救援部長 池田 聡子 / H22.2.13~3.22
 事務管理・業務部研修課研修係長兼国際医療救援部 無津呂 昌代 / H22.2.13~3.22
 看護師・国際医療救援部看護師 矢野佐知子 / H22.2.21~3.28

ハイチ共和国で発生した地震（現地時間2010年1月12日16時53分）において、1月26日より1カ月間活動を行いました。

限られた移動手段や情報が不十分な中、首都、ポルトープランスの避難民キャンプの調査を行い、日系自動車企業の敷地内に診療所を開設しました。1日に60~100人程の被害者が訪れ、そのうち地震によるケガは10~20%で、多くは頭痛胃痛など不衛生な環境やストレスによる体調不良を訴える方が多かったです。診察は通訳を介して現地語（クレオール語やフランス語）で行いました。現地の医師や看護師を雇用し、徐々に診察は現地医師に移行して、われわれは管理業務と外傷の処置に専念できるようになっていきました。ケガの特徴としては震災直後に適切な処置がなされなかったため起こった創感染や、落下したブロックなどで足の皮膚や指の一部がなくなった方などが多く、骨折は他施設で、すでにギプス固定がされています。傷が大きい方には麻酔をして植皮手術なども行いました。また診療所での診察以外に巡回診療も行いました。赤十字以外にも多くの支援団体が各避難民キャンプに診療所を開設していましたが、小さなキャンプや崩れた家の軒先に住んでいる人たちは医療支援を受けられないままになっているところもありました。フランス赤十字社と共同で避難民キャンプを訪問し、診療を行いました。

一方、首都から35キロ西方の震源地に



現地の医師へケガの処置方法を説明している様子



避難民キャンプの様子



地震により倒壊した建物



近いレオガンという町でも診療所を開設し、こちらでも最初から現地職員を採用して共同で診療に当たりました。光森・河合両名とも2月20日からはレオガンに移動して、そちらで診療を行いました。急性期を過ぎて高血圧や糖尿病などの慢性疾患で受診する患者が増え、少数例ながら熱帯病であるマラリアの発生などがみられ治療薬の確保など対応が必要でした。

■予防接種キャンペーンの実施

震災直後より現在もなお100万人以上もの被災者が避難民キャンプでの生活を余儀なくされています。そもそも最貧国の一つであるハイチでは国民の予防接種率が50%前後と低く、人口の密集した環境下で仮にはしか等の伝染病が流行すれば大惨事が危惧されます。そこでドイツ、フランス、カナダなど各国赤十字社と協力し、MR（はしか・風疹）やDPT（ジフテリア・百日咳・破傷風）などの混合ワクチンの接種を1日平均1,000~3,000人に実施しました。

現在も後続班が各キャンプを順に回り、活動を継続しています。南国ハイチは連日35℃を超える炎天下であり、かなり体力を消耗しましたが、地元の赤十字ボランティアさんたちも熱い中、毎日がんばってくれていました。

■活動中の生活について

今回は国際赤十字・赤新月社連盟から各国赤十字社にERU（緊急対応ユニット）の要請があり日本から出動した基



われわれ救援要員は蚊帳の中に入って眠る



医師たちは夜も報告書やデータの処理などに追われる



皮膚が大きく欠損した子どもへの植皮術



赤十字ボランティアによる予防接種の様子

礎医療の対応以外に、野外病院、水衛生供給、救援物資の配布、仮設住宅設営などのユニット設備が出動しました。各国から多数の人員が集まり、あつという間に200人を超えました。当初は倉庫の脇の空き地にテントを各自張って野宿していましたが、これらの要員を支えるテント村が設営され、食堂での給食もはじまりトイレ・シャワー（お湯はませんが）の数も増え、われわれの生活環境は急速に改善しました。ただし安全管理のため夜6時以降の外出はできず、基地と診療所、避難民キャンプを車で往復する毎日でした。

派遣前はニュースで配給の取り合いや倒壊した商店からの略奪、刑務所から集団脱走など治安に関してはかなり心配されました。実際ハイチに入ると国連平和維持軍以外にも多くの治安部隊が武装して市内を巡回しており、軍用ヘリが飛び交い殺伐とした雰囲気でした。しかし基地周囲で窃盗団らしき集団に威嚇射撃があったことと、一度基地周囲でデモがあった以外はあまり危険を感じることがありませんでした。避難民キャンプ内に入っても好意的に受け入れられて危険はありませんでしたが、水や食料の不足を訴えられたり、仕事を希望する人に度々話しかけられ、継続した支援と社会全体の復興の必要性をひしひしと感じました。

今後も日赤のハイチでの救援活動は続きます。多くの方々から義援金を寄付して頂きありがとうございます。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

ひな人形の展示を行いました

2月3日から3月4日まで、今年も正面玄関ホールにひな人形を展示しました。立派なひな人形に驚いた様子で、多くの患者さまやご家族の方々が足を止めて見入っておられました。おひなさまには、子どもの身代わりとなり、事故や病気から守ってくれるように、また、子どもの成長と幸せを願う心がこめられているとされています。少し早い春の訪れを、ひな人形が知らせてくれたように思います。



スプリングコンサート

3月14日(日)にスプリングコンサートが2階総合ホールで開催されました。第1部は、3月まで当院の消化器内科で診察にあっていた川上尚人医師(サックス演奏)とその仲間たちによるジャズライブでした。曲目は「Close to you」「Wave」などで、サックス・ピアノ・ベース・ドラムの重厚かつリズムミカルな曲に、会場はリラックスした雰囲気にも包まれました。



第2部は当院の消化器内科 竹田治彦医師のヴァイオリンとそのご友人によるピアノのデュオでした。曲目は「愛のあいさつ(エルガー)」「愛の悲しみ(クライスラー)」「スプリングソナタ(ベートーベン)」「パガニーニの主題による狂詩曲～第18変奏(ラフマニノフ)」などで、最後の「ヴァイオリン協奏曲より(メンデルスゾーン)」に



いたっては、お二人の高度なテクニックと優しく美しい音色がすべての観客を魅了しました。

当日は、300人近くの入院中の患者さまや付き添いの方、ポスターを見てきてくださった患者さまなどであふれ、病院に一定早い春がきたようなおだやかな午後となりました。

編集後記

春は卒業・進学・就職・転職など「別れ」と「出会い」の季節です。

「別れ」は共に過した日々を思い起こさせ、ただひたすら寂しさがおしよめます。別れいく人には、楽しい思い出をたくさんありがとうと感謝の気持ちでいっぱいです。

しかし、「別れ」の後には、新たな「出会い」が待ち受けています。この広い世界の中で、長い歴史の中で、新たな「出会い」は奇跡です。この出会いも、また、大切にしたいものです。

(T.M)



医療ソーシャルワーカー 福井 実希

「病状は落ち着いています。そろそろ退院後のことを考えてみてください。」

本人や家族が思い描いた退院の時期よりも早く、このようなことを言われた経験のある方は多いと思います。これは厚生労働省の医療制度改革によって病院が機能分化したことと関係しています。今回は病院の機能についてご紹介いたします。

医療
ワ
ソ
カ
シ
ヤ
ル
4

◆急性期病院—当院もこの機能を担う病院です

急な病気や怪我、疾病の著しい悪化など重篤な病状・症状に対して集中的に治療を行う病院です。病状が落ち着けば退院となり、基本的に長期的な入院はできません(診療科や治療内容、本人の状況によって異なる場合があります。ちなみに当院の平均在院日数は約13日です)。

◆回復期リハビリテーション病棟

早期に重点的なリハビリを行うことで少しでも後遺症を軽減し、より早期に在宅へ復帰することを目的とした病院です。入院には要件が定められています。

回復期リハビリテーション病棟への入院要件	入院上限期間
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、脳腫瘍、脳炎、多発性硬化症などの発症または手術後2ヵ月以内	150日
(高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の脊髄損傷および頭部外傷を含む多発外傷の場合)	(180日)
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節の骨折の発症または手術後2ヵ月以内	90日
外科手術または肺炎などの治療時の安静のより生じ廃用症候群があり、手術後または発症後2ヵ月以内	90日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節の神経、筋、靭帯損傷後の1ヵ月以内	60日

◆療養病棟

病状が安定し急性期の治療が終了しているものの、引き続き医学的な処置の必要度が高い方を対象としている病院です。急性期病院より長期的な入院の相談ができますが入院期間は病院ごとに異なり、治療を目指して新たな治療を行うことは難しくなります。

◆ホスピス

主にがんの終末期で、患者本人が自分の病状やホスピスについて理解している人が対象です。終末期のために生じる様々な苦痛などを緩和して、その人らしい療養生活を行うことを目的としています。治療を目指した積極的治療は行わず、疼痛の緩和を目的とした医療処置を行います。

病院に入院すると、自分の足で元気に歩いて帰ることができるようになってから退院すると考えている方が多いのではないのでしょうか。しかし急性期病院として、今すぐに治療や手術が必要な方に適切な医療を提供するためにも、病状が落ち着き医師が急性期病院での治療は終了したと判断すれば、退院のお話をさせていただいています。しかしながら、退院後も継続した医療やリハビリが必要な方や、なんらかの理由によって家で過ごすことが困難な方もいらっしゃるでしょう。

急性期病院での治療が一段落したら、他の機能を持つ病院へ転院することも可能です。実際に入院できるかどうかは現在の病状、合併症や既往歴、今後必要とされる医療行為によって異なります。どのような選択をするとしても、まずは主治医から本人の状況をよくお聞きください。ソーシャルワーカーは、退院後の生活を考えていくためのお手伝いや、具体的な転院先の病院を探すためのお手伝いもいたしますので、お気軽にご相談ください。

相談窓口

本館2階8番窓口 医療・福祉相談支援センター

外来診療担当表

平成22年4月1日現在

午前診療 午後診療


科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
消化器科		津村	中島	邊見	木村	齋藤	
		松田	金坂	圓尾	喜多	波多野	
		関川	岡部	大崎	石川	圓尾	
		犬塚		坂本	竹田		
		津村	中島	邊見	金	齋藤	全て予約制
		松田	金坂	越川	赤穂	波多野	
消化器科(肝臓外来)		喜多	大崎	木村	恵荘	西川	午後は予約制
糖尿内科		南部	武呂	米光	隱岐	政次	午後は予約制
内分泌内科・肥満		米光	金井	武呂	政次	武呂	午後は予約制
血液内科		通堂	渡邊	杉野	金子	三浦	
		金子	三浦	通堂	渡邊	通堂	
		松井	渡邊	中村	金子	杉野	全て予約制
		金子	三浦	通堂	渡邊	藤井	
リウマチ・膠原病内科		井村	井村	井村	藤村	伊藤	全て予約制
腎臓内科		南方	小川	渡瀬	森上	宮本	
		宮本	渡瀬	南方	宮本	南方	
		南方	小川	渡瀬	森上	宮本	全て予約制
循環器科		担当医	田中	伊藤	長央	福地	
		林	稲田	林	牧田	稲田	
		福地	伊藤	林	長央	福地	全て予約制
不整脈科		牧田	牧田		内山		
		(ペースメーカー) 内山	牧田		内山		全て予約制
心臓血管外科			中山	中山		中山	全て初診のみ
			坂本	仲原		坂本	全て予約制
小児科		山本	(アレルギー外来) 住本	(アレルギー外来) 田中	(腎臓外来) 住本	金岡	
		(神経外来) 新居	竹川	葭井	田中	朴	
小児外科		松川		松川			
		田中	片岡	石川	河野	中島研	
外科		花房	井ノ本	中島康	有本	吉利	
		端	河野	小松	河口	金澤	
		露木	露木	奥村	露木	川田	
		田中	井ノ本	石川	有本	中島研	注)緩和ケア外来の診察は 2Fのがん看護相談室とな ります。
		花房	金澤	中島康	河口	金澤	
		露木	崎田	小松	露木		
整形外科		渡邊	鈴木	坂本	大浦	富原	
		富	富	堤	堤	吉田	全て予約制
リハビリテーション科		大浦	河野	鈴木	坂本	富原	
		大浦	河野	鈴木	坂本	富原	
脳神経外科		担当医	岡本	担当医	岡本	谷	予約・紹介のみ
		担当医	橋本	担当医	新田	米田	
		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
神経内科		金田	高橋	中村	鈴木	加藤	全て初診のみ
		鈴木	加藤	金田	加藤	鈴木	全て再診のみ
		高橋	(隔週 中村)	加藤(予約)	金田	中村	
呼吸器科		(喘息外来を 兼ねる 吉村)			西坂	若山	午後予約制
		網谷	西坂	網谷	中村	(喘息外来を 兼ねる 吉村)	
		花岡	黄	若山	時岡	黄	
呼吸器外科			中出	渡辺		川邊	※手術相談外来 は予約制
		(手術相談外来 中出)		田中		山崎	
産婦人科		(午前:江本 午後:松本)	(午前:西川 午後:砂田)	(午前:橋本 午後:江本)	(午前:砂田 午後:矢野)	(午前:川島 午後:矢野)	産科・助産師外来
		川島	松本	長野	吉岡	江本	婦人科外来
泌尿器科		西村	光森	仲島	西村	岩村	全て予約制
		岩村	岡村	岡村	仲島	光森	
		西村	(不妊外来 光森)	仲島	(前立腺外来 西村)		全て予約制
眼科		石郷岡	石郷岡	廣井	石郷岡	田口	予約制 ※午後の専門外来は再診 のみ。初診は、各専門外来 日の午前中に、専門医の 診察をお受けください。
		正井	担当医	藤原	田口	石井	
		藤原	廣井	田口	石井	長央	
耳鼻咽喉科 頭頸部外科		山原	和田	山原		山原	
		田中	岩永	田中	担当医	岩永	
皮膚科		小西	小西	和田		和田	
		隈部	平塚	平塚		隈部	
		樋上	堀口	堀口	湊	堀口	
形成外科		政次	樋上	政次	(隔週 政次・樋上)	樋上	全て予約制
			堀口(予約)	下股静脈瘤 外来		下股静脈瘤 外来	
放射線科		重吉	岩井	重吉	内藤	内藤	
		吉田	早川	吉田	早川	吉田	
精神神経科		伊達	杉田	杉田	伊達	早川	
				土戸	齋藤		
		藤堂	塩崎	塩崎	小山	古田	診断
		石垣	石垣	石垣	石垣	石垣	治療
		古田	(外科)	山内	(外科)	塩崎	検査(透視)
		小嶋・小山	古田・藤堂	小山・藤堂	小嶋・小山	小山・藤堂	検査(CT)
歯科 口腔外科		塩崎	小山	古田	塩崎	古田	検査(MRI)
		塩崎	塩崎	(循環器科)	塩崎	塩崎	検査(RI)
		塩崎	古田		古田		検査(血管造影)
		石垣	石垣	石垣	石垣	石垣	治療
		小山・塩崎	塩崎・小山	塩崎・古田	塩崎・古田	塩崎・古田	検査(CT)
		古田	古田	小山	小山	塩崎	検査(MRI)
歯科 口腔外科		山田	杉立	森下	担当医	担当医	全て初診(紹介)のみ
		杉立	森下	杉立	手術	杉立	全て再診(予約制)

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
- 初診の方/月曜日～金曜日 8:30～11:30 ●再診の方/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日
- 土曜日・日曜日・祝日・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券
- 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会(病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護士にご相談ください)
- 平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00 ●小児病棟(平日・休日とも)/14:00～19:00
- 保険証等
- 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

■当館は全面禁煙です

当院では館内を全面禁煙とさせていただきます。ご理解とご協力をお願いします。



異動等により変更になる場合があります。下記ホームページの各診療科のご案内をご覧ください。

●お問い合わせ
TEL 06-6774-5111 (代表)
 (大阪赤十字病院) <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
 (赤十字全般) <http://www.jrc.or.jp/>

